

□ そうした施策で対応できないかとも考えています。

三宅 トマト栽培を有限会社化して4年になります。規模拡大のため、井原市美星町の遊休農地を借り、開墾して栽培を始めましたが、自分でやってみて、農地に戻す大変さを知りました。

三村 販売の立場でよく聞くのは、農業に興味がある人は、大規模な農業ではなく、家庭菜園程度を希望しているということですね。岡山市や倉敷市など県南にはそういった希望を持つ人が特に多いので、こうした要望に応える取り組みとしてはどうでしょうか。例えば、貸し農園のようなものを整備し、地域の人が指導に当たる。民間参入で橋渡しが行われている地域もあります。家を建てて定住してもらうことも大切ですが、まずそのための足がかりとして取り組んでみてよいのではないのでしょうか。

市長 住んでもらって農業してもらったための取り組みだけでなく、農業に携わる昼間人口が増えるような取り組み、例えば農業観光のような取り組みも一つ

の方法かもしれません。

高梁城南高校川上校地が今年度末で閉校となります。農業のための設備が整っているのに、担い手育成や新しい農業研究に上手く活用できないかと思っています。

山田 吉備中央町では農業公社を核に就農者の受け入れを行っています。川上校地の跡地利用について考える際に一つの方法として、検討してはどうでしょうか。

市長 市が農業公社を運営するのは難しいかもしれませんが、それに替わる組織は必要です。関係機関と連携して考えていきたいと思っています。

仲山 農地を荒らすと、3年もすると農地として使えなくなりません。遊休農地を活用するために川上地域まちづくり協議会の事業で、種子代補助を行いました。花見でもできればとソバを



山田さん



中迫さん

植えた地域では「せつかくだから収穫しよう」「収穫したならソバでも打とう」とお年寄りから子どもまで集まる行事が次々と行われ、地域の絆を深める機会になりました。

新規就農について

中迫 15年前から就農希望者を受け入れて指導しています。希望者をどう育てていくか、悩みも多いですが一緒に頑張りたいと思っています。

山田 中迫さんとの出会いがきっかけで、平成5年に備中町で就農しました。先輩として新規就農者を引っ張っていきたいと思いますが、子育てもあり余裕がないのが実情です。

仲山 以前、退職者就農について大阪や福山でアンケートを取ったことがあります。希望は多かったのですが、実際の就農は1人だけでした。

理由の一つとして、農地は貸すが、家は貸したくないという人が多く、農地法で農地に家は建てられないので、よそから来て農業を始めようとしても住むところに困ります。農地についても、よく知らない人には貸したくないと、警戒する人も多い。市が責任を持って貸す方法はないでしょうか。

また、農業を始めるにも資本が必要になりますが、若者が1000万円を超えるような多額の資金を準備するのは難しい。学校の育英資金のような方法も考えられないでしょうか。

芳賀 農業のみでは生活が苦しいので、兼業経営の農家が多い。そういう中で若者を迎えることは困難だと思います。都会で働いて退職した田舎暮らし希望者を対象としたような定住施策が必要なのではないのでしょうか。



芳賀さん



中岸さん

☒

中岸 私の住む平川地区は備中町でも屈指のトマト、ピオーネの産地でしたが、過疎化、高齢化が進んでいます。どうしたら平川へ来て定住してもらえるかと地域で考え、トマトかピオーネを作りたいという夫婦の受け入れを行う「平川村定住推進協議会」を平成20年4月に立ち上げました。

半年間、地域で受け入れ、農作業だけでなく、祭りなどにも参加してもらい、お互いが理解し合っていく中で暮らしていくようななら住んでもらうという取り組みです。

また、希望者をすべて受け入れるのではなく、見合い方式なので、条件等が合わなければ、こちらからお断りする場合があります。20年度から4組受け入れて、1組定住することが決定しました。農地や空き家があつ

ても賃貸が難しい中、市の協力で元教員住宅を改修し、3月から入居の予定です。

桑田所長 平川の取り組みは良いモデル事例なので、ぜひ、ほかの地域にも広めていきたいと思えます。そのためには、農地や新規就農者等の情報を共有することが大切であり、農家や関係機関との連携を強めていきたいと思えます。

三宅 私のところでは、農業がしたいという20代の若者3人に従業員として去年から私の家で一緒に暮らしてもらっています。美星町の土地を借りたのはある程度の広さが必要だったからです。現在はまだ軌道に乗っていません。しかし、いずれはそうした一部の農地を任せられればと思っています。

藤田 いろいろな人が高粱を訪れる仕掛けを作る必要もあるのではないのでしょうか。県南や京阪神の人には、高粱のイメージは良いと聞きます。市にも就農相談窓口ができ相談は増えているのかもしれませんが、山光園以外の就農は少ないと思います。

長野県飯田市では、10年以上



藤田さん

前からワーキングホリデーとして年間500〜600人が訪れ無償で農業を手伝っています。農業をやりたい人がリピーターとなり毎年訪れているそうです。また、静岡県の一村運動では、会社の福利厚生として農村と交流しています。

三宅 農業を始めたい人はいろいろな所で収穫だけ体験するよりも、1カ所で2〜3年と農業の流れをじっくりと学ぶ方がよいと思います。

仲山 城南高校川上校地は宿舍もあり、利用すべき施設であると思います。各農家で就農希望者を受け入れるのもよいですが、基礎を学んでから農家で学ぶというのも一つの方法だと思います。

「高粱へ来てみんせえ」と、ほかの地域とは違う魅力を発信してほしいと思います。

ピオーネスクール、トマトスク

ールは素晴らしい事業とと思っていますので、県南地域へもどんな情報発信してほしい。私たちも協力します。

市長 民間組織でグリーンツーリズムなどの取り組みも始まっています。農業に興味を持つ人を受け入れる体制づくりが必要なので、これからの施策に反映させたいと思います。

これからの農業について

中迫 ラジオで聞いた言葉ですが、地域が活性化するには「元気な若者がいて、何ごとにも夢中になれる馬鹿者がいて、新しい風を呼び込むよそ者がいる」ことだと思います。そんな素晴らしい高粱にしていければ。

藤田 私の所属している備北地域の新規就農者でつくる「わいわいクラブ」でもボランティアを雇っているメンバーがいます。1カ月〜半年そこに泊り込んで農業に携わることで、地域



仲山さん